

平成29年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

1 研究開発課題名	
<p>ディスティネーションデザイン！ アジア経済圏におけるファッション産業集積拠点「福岡」の成長を担う専門的職業人「Kブランド人材」の育成～高度な資質・能力を育む産学接続型教育プログラムの開発を通して～</p>	
2 研究の概要	
<p>鋭い感性や豊かな創造力などの高度な資質・能力を身に付け、グローバルな視野を持って福岡から“クールジャパン”を発信する人材を輩出するため、福岡商工会議所等の協力機関と連携・協働の在り方について協議を開始するとともに、以下の学習プログラムの開発及び目標に対する効果測定の方法に関する研究を行う。</p> <p>ア 唯一無二のデザインを生み出す創造力を育む「福岡発ファッションイベント企画・運営実習」 イ 可能性を広げるワールドワイドな鋭い感性を育む「世界のファッション文化を学ぶ海外研修」 ウ “美”の文化を複眼的に捉える洞察力を育む「郷土の一級品に触れる実習・体験活動」 エ グローバルに活躍する基礎となる語学力を育む「English for fashion students」</p>	
3 平成29年度実施規模	
ファッションデザイン科を対象として実施した。	
4 研究内容	
●研究計画（指定期間満了まで）	
第1年次	<p>【学習プログラムの開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福岡商工会議所や地元産業界、大学など協力機関と連携のあり方について協議を開始 研修プログラムの企画、協力機関との調整及び実施 ファッション英語カリキュラム及び教材開発（1年次）等 <p>【目標に対する効果測定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ルーブリックの開発 アンケート調査の実施等
第2年次	<p>【学習プログラムの開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年目実施プログラムの検証と改善及び実施 体系的な3年間の指導計画の構造化・具体化構想 ファッション英語カリキュラム及び教材開発（2年次）等 <p>【目標に対する効果測定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年間のアンケート、生徒の活動記録等の分析 高度資格の指標の在り方についての研究
第3年次	<p>【学習プログラムの開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年目実施プログラムの検証と改善及び実施 体系的な3年間の指導計画（学びの地図）の完成 ファッション英語カリキュラム及び教材開発（3年次）等 <p>【目標に対する効果測定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間のアンケート、生徒の活動記録の最終分析 最適な産学接続教育プログラムの策定 高度資格の指標の在り方についての研究
○平成29年度の教育課程の内容	
<p>平成28年度に引き続き、英語をはじめ共通教科及び専門科目間の教科横断的視点にたったカリキュラム・マネジメントの充実・改善を検討するとともに、SPH事業の各事業を専門科目の年間指導計画に位置づけることで目標の明確化や評価の充実に努めた。</p> <p>（平成29年度教育課程表 ※別紙にて添付）</p>	
○具体的な研究事項・活動内容	
1 研究事項	
(1) 学習プログラムの開発	
<p>ア 協力機関との連携・協働の推進 昨年度に引き続き、福岡商工会議所をはじめとして、多くの地元ファッション企業関係者と意見交換を行うことを通して、産学連携に向けた良好な協力体制づくりに努めた。</p> <p>イ 学習内容の明確化 「どのような力を身につけさせるか」「何を学ばせるか」「そのためにどのように学ばせるのか」等の視点に立った実施要項を企画・立案し、それぞれのプログラムを実施した。</p>	
(2) 目標に対する効果測定（評価方法）	

■定性的な評価

ア 学びの高度化

全教科において横断的視点による年間指導計画の作成を行い、学ぶ内容に関して共通教科との広がりが生まれた。専門教科においては、年間指導計画における指導目標を明確に位置づけるとともに、ルーブリックによる客観的評価を実施した。

イ 身についた力の見える化（アンケート・意識調査の結果から）

個別の事業成果を把握するため、昨年度に引き続き生徒・職員・外部協力機関向けのアンケート調査を実施するとともに、生徒の成長を継続的に図るために生徒意識調査を実施し、生徒の意識の変容についての比較を行った。

■定量的な評価

ファッション産業で活躍できる資質を身に付けたかどうかの指標としてファッションに関する高度資格の取得率を指標とし、色彩検定（文部科学省後援）1級、ファッション販売能力検定（日本ファッション教育振興会）2級とあわせて、その他検定のあり方についても7月以降高大接続改革におけるキャリアパスポートを視野に入れて指導に取り組んだ。

2 活動内容

（1）福岡発ファッションイベント企画・運営実習

1年目の社会人招聘事業における学びをもとに、ビジネスの視点を加味したオリジナルファッションショーを文化祭から実施し、その後の校外ファッションショーにおいても、それぞれの客層やイメージに合わせた企画立案でオリジナルファッションショーを実施した。福岡商工会議所など地元産業界や大学等が連携・協働して開催される「ファッションウィーク福岡」などのイベントに参画する企画・運営実習から産業としてのファッションについて理解を深め、ビジネスに繋げる視点を加味したクリエーション能力の育成を目指して実施している。

■実施事業実績（学年毎）

[平成29年度生（1年生）]

6月 ファッションショー（本校文化祭）

7月 職業理解推進研修（3泊4日）

10月 デザインの発想の特別授業、東京ガールズコレクション運営実習、「ファッションウィーク福岡」実習に向けた専門家を招聘した特別授業

12月 アジアコレクションに出品するトップデザイナーを招聘した特別授業

[平成28年度生（1年生→2年生）]

2月 FFBフィッター実習、ウォーキングの特別授業1回目、ファッションショーと作品展（博多阪急）

3月 色彩の特別授業、国際ファッションイベント（アジアコレクション）の運営業務体験

6月 ファッションショー（本校文化祭）

7月 職業理解推進研修（3泊4日）

9月 ウォーキングの特別授業2回目、商品企画実習

10月 デザインの発想の特別授業、東京ガールズコレクション実習（写真1）、「ファッションウィーク福岡」実習に向けた専門家を招聘した特別授業

11月 デザイン発表会1回目

12月 アジアコレクションに出品するトップデザイナーを招聘した特別授業、デザイン発表会2回目・3DデータCADによる製作についての特別授業

1月 ウォーキングの特別授業3回目

[平成27年度生（2年生→3年生）実施事業]

2月 ウォーキングの特別授業1回目、ファッションショーと作品展（博多阪急）

3月 国際ファッションイベントの運営業務体験、パーソナルカラーの特別授業1回目

5月 パーソナルカラーの特別授業2回目、ウォーキングの特別授業4回目

6月 ファッションショー（本校文化祭）

9月 ウォーキングの特別授業5回目（写真2）

10月 ファッションショー（博多秋祭り（写真3）、近隣ショッピングセンター、同窓会総会）、「ファッションウィーク福岡」実習に向けた専門家を招聘した特別授業

11月 「ファッションウィーク福岡」マッチングミーティング

12月 アジアコレクションに出品するトップデザイナーを招聘した特別授業



写真1 東京ガールズコレクション実習



写真2 ウォーキングの特別授業



写真3 ファッションショー（博多秋祭り）

〔平成26年度生（3年生）実施事業〕

2月 ファッションショー（手作りフェア（マリンメッセ）、博多阪急）

3月 ファッションショー（キャナルシティ博多）

■実施事業詳細（例）

〔職業理解推進研修〕（写真4）：リーダー候補生徒10名を選考し、企業見学等に派遣（1・2年生）

明確な将来の目標を持ち、高い意識を持って学んでいる生徒を対象に、ファッション都市神戸を中心とした研修を通して、産業としてのファッションビジネスについての理解を深め、ビジネスに繋げる視点を加味したクリエイション能力の育成を目指し実施した。

関係科目：「ファッション造形基礎」「ファッション造形」「ファッションデザイン」「服飾文化」「服飾手芸」「生活産業基礎」「生活産業情報」

協力機関：（株）マキシン、宝塚歌劇団、神戸グランドアンカー、エスモード 京都校

実施場所：同上（兵庫県）

〔「ファッションウィーク福岡」実習〕（写真5）

毎年3月開催される「ファッションウィーク福岡」への参画に向けて、スペース提供のファシリティを獲得するため、マッチングミーティングにおいて企画提案を行った後、ステージ発表の企画・運営実習を実施している。平成26年度生は、「キャナルシティ博多」においてファッションショーを開催し、平成27年度生は、「イムズ」「新天町」においてファッションショー開催予定である。

関係科目：「ファッション造形」「ファッションデザイン」「服飾手芸」

協力機関：福岡アジアファッション拠点推進会議、エスモードジャパン、キャナルシティ博多、新天町

実施場所：本校、福岡市博多・天神地区

〔「キャナルシティ博多インフォメーションスタッフ様」制服デザイン・製作〕

（写真6）：全学年

インフォメーションスタッフ7名、計28着の秋冬用制服を受注し、デザインから製作すべてを学科内で行い、9月に納品、10月1日より着用していただいている。

関係科目：「ファッション造形基礎」「ファッション造形」「ファッションデザイン」「生活産業情報」

協力機関：福岡地所株式会社

（2）世界のファッション文化を学ぶ海外研修

我が国固有の美の文化や英語に関する学習の成果を基盤として、日本では感じる事ができない世界水準の最先端ファッション文化について理解を深めるとともに、「インキュベータ」、「ジョージ・ブラウン・カレッジ」などの見学や学生との交流から、海外のファッション文化や多様性が可能性を生むことなどの理解を深め、世界を視野に入れた豊かな国際感覚を育むことができた。

〔世界のファッション文化学習会〕：2年生 9月8日

カナダ研修の事前指導として、ファッションの専門家の特別授業（2年生）

関係科目：「ファッション造形」「ファッションデザイン」「服飾手芸」「服飾文化」

協力機関：文化服装学院（専門家の派遣）

実施場所：本校

〔カナダ研修〕：2年生 1月10日～16日

「ジョージ・ブラウン・カレッジでの学習・交流活動」「トロント・ファッション・インキュベータでの学習（写真7）・交流活動」「トロント市内グループ研修」「カナダ織物博物館」「バータ靴博物館」

※1月16日：「作品発表に向けた素材の調達」（東京都暮里繊維街）

関係科目：「ファッション造形」「ファッションデザイン」「服飾手芸」「服飾文化」

協力機関：近畿日本ツーリスト（現地機関との調整）

実施場所：カナダ（トロント）各会場

（3）郷土の一級品に触れる実習・体験活動

伝統文化や地場産業の背景となる考え方や価値観等について理解を深め、多様な「美」の文化を柔軟に受



写真4 職業理解推進研修



写真5 「ファッションウィーク福岡」実習



写真6 制服デザイン・製作



写真7 トロント・ファッション・インキュベーターでの学習交流活動

け入れる能力の育成を目指して、福岡はもとより九州が誇る郷土の多種多様な伝統工芸や地場産業に直に触れる実習や体験活動を実施した。

6月 久留米絣・博多織に関する特別授業（1年生）、版画作家による特別授業（1・2年生）

11月 日本の美の文化やアジアとの交流史等に関する特別授業（2年生）、
「色鍋島今右衛門」の美に関する特別授業（写真8）（1年生）

12月 博多織実習に関する特別授業（2年生）、和装コーディネーター等に関する特別授業（1年生）

関係科目：「生活産業基礎」「服飾文化」「服飾手芸」

協力機関：久留米絣織元「森山絣工房」、博多織「千年工房」、九州国立博物館、博多織工業組合、博多呉服商組合「呉服のたかはし」、色鍋島今泉今右衛門

実施場所：福岡県広川町、那珂川町、太宰府市、福岡市、佐賀県有田町



写真8 「色鍋島今右衛門」の美に関する特別授業

(4) English for fashion students

大学・短期大学等と連携して「ファッション英語」のカリキュラム開発及び授業研究に取り組み、実践的な英語力向上のための授業に体系的に取り組んだ。（「業界でよく使う英単語100選」の習得等）。あわせて、ファッションに関する英語を理解し、英語でアウトプットすることができる能力の育成を目指して、イングリッシュ・キャンプでの交流等を実施した。

【ファッション英語】

4月～3月 1・2年生の指導カリキュラム及び教材の開発

1月（1年生）2月（2年生） 英語教育の専門家を招聘した研究授業

【ファッション版イングリッシュ・キャンプ】（写真9）

7月（3年生）10月（2年生）2月（1年生） ファッションデザインに関するプレゼンテーションやネイティブスピーカー等との交流等

関係科目：「英語表現Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」

協力機関：西南女学院大学（専門家の派遣）なみきスクエア（会場の提供）

実施場所：同上（福岡市）、本校



写真9 ファッション版イングリッシュ・キャンプ

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

(1) 校外ファッションショー及び作品展を通して

本研究の4本柱の一つ「福岡発ファッションイベント企画・運営実習」において、本校文化祭ファッションショーから始まり、ビジネスの視点から、それぞれの開催場所、客層、テーマなどに合わせた演出をしながら、8回のファッションショーをし、SPH事業の普及に努めている。

(2) 本校のグランドデザインの一環としてのSPH事業

SPH事業は、グランドデザインの一環として実施している。そこで、本校の新たな学びプロジェクトの発表等でも、本研究を紹介することにより、普及に努めている。

(3) 研究の発表の機会を通して

高等学校産業教育担当指導主事連絡協議会における事例発表、第61回全国高等学校家庭科実践研究大会における実践発表、被服・服飾デザイン第15回総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会における実践発表3回の発表の機会は、SPHの取組を振り返り、課題を見だし、次につなげる機会となった。また、発表を聴かれた先生方から、内容を整理する上で大変参考になる御意見や家庭科教育に果たす役割等を示唆する感想をいただいたことに、深く感謝している。

(4) その他

ア 入学生の学力向上に伴う学科内容の向上（アチーブの向上）

入試志願倍率は、隔年現象を起こしていたが、SPHの取組やファッションデザイン科への科名変更により、平成29年度は下がることなく上がり、今までと比べて高い学力の中学生が多く受験した。学力に関わらず、ファッションを学びたいと考え入学した1年生は、各事業で講師に質問を積極的にするなど、あらゆる教育活動で意欲が見られる。

イ 新入学の保護者の認知度の変容

中学生体験入学や進路相談事業では、保護者から、コレクション実習の内容、卒業時のアパレルCADにおける製図の作成力、ファッションが学べる伝統的な4年生女子大学への進学率など、具体的な学習内容の質問が多く見られた。ファッションビジネスの世界で活躍している保護者への認知度が向上した可能性がうかがえた。

○実施による効果とその評価

(1) 学びの高度化

ア 横断的視点による共通教科への広がり

「科学と人間生活」の簡易プリズムを作成と光の観察における「ファッションデザイン（色彩）」との横断的カリキュラムのように、横断的視点が共通教科に広がった。また、普通科とファッションデザイン科のアイデンティティの確立と相互理解の推進が見られるようになった。

イ 専門科目における指導

各事業を年間指導計画に位置づけ、ループリックの開発による評価の観点の具体化から評価内容を生徒に還元し、深い学びにつなげることができた。

ウ カリキュラムマネジメントの充実

専門科目・SPH事業を中心に平成27年度に作成した3年間の指導計画を更新しながら教育活動を実施し全体像を明らかにすることで、卒業後の最終的な生徒像をイメージするようになった。

(2) 身に付いた力の見える化

表1 生徒の郷土の一級品に触れる実習・体験活動アンケート経年比較

	意欲	課題解決力	知識・技術の習得	職業観の変化
H28	3.7	3.4	3.5	3.2
H29	3.7	3.8	3.7	3.5

ア 事業アンケート結果から

生徒の事業アンケートの結果、表1のように、「郷土の一級品に触れる実習・体験活動」の数値が高くなった。伝統工芸の色彩・デザインなどを見るとともに、伝統工芸士の方たちとの対話から、伝統を守り抜くこと、技術や感性を磨いてこられた覚悟などを感じ取ったことに加え、「福岡発ファッションイベント企画・運営実習」の複数のデザイナー等に「自分自身のゲージを持つ大切さ」の講話をいただいたことによる意識変化と考えられる。

図1は、東京ガールズコレクション実習の生徒の感想の分析結果である。感想文を客観的に評価するため、KH Coderを用いた。KH Coderとは、樋口耕一（立命館大学産業社会学部准教授）が開発した従来のDictionary-basedアプローチとCorrelationalアプローチを併用する分析方法である。今回の評価では、「共起ネットワーク」（出現パターンが似通った語を線で結んだネットワーク図）のコマンドを用いた。両学年とも「照明」を中心とした記述のまとまりがある。1年生は「ステージに立つと思っていたより、照明があたってまぶしく感じたが、最後まできちんと歩くことができました。」というウォーキングをした際の照明をインパクトとして用いている場合が多く、2年生は「照明の一つ一つを動かし続けている人を見ると、目立たないバックヤードの方たちがいるからこそ、迫力のあるステージを作ることができるのだと思いました。」のように、照明を中心にバックヤードを観察した感想が多かった。このように学年による変容を明らかにすることができた。

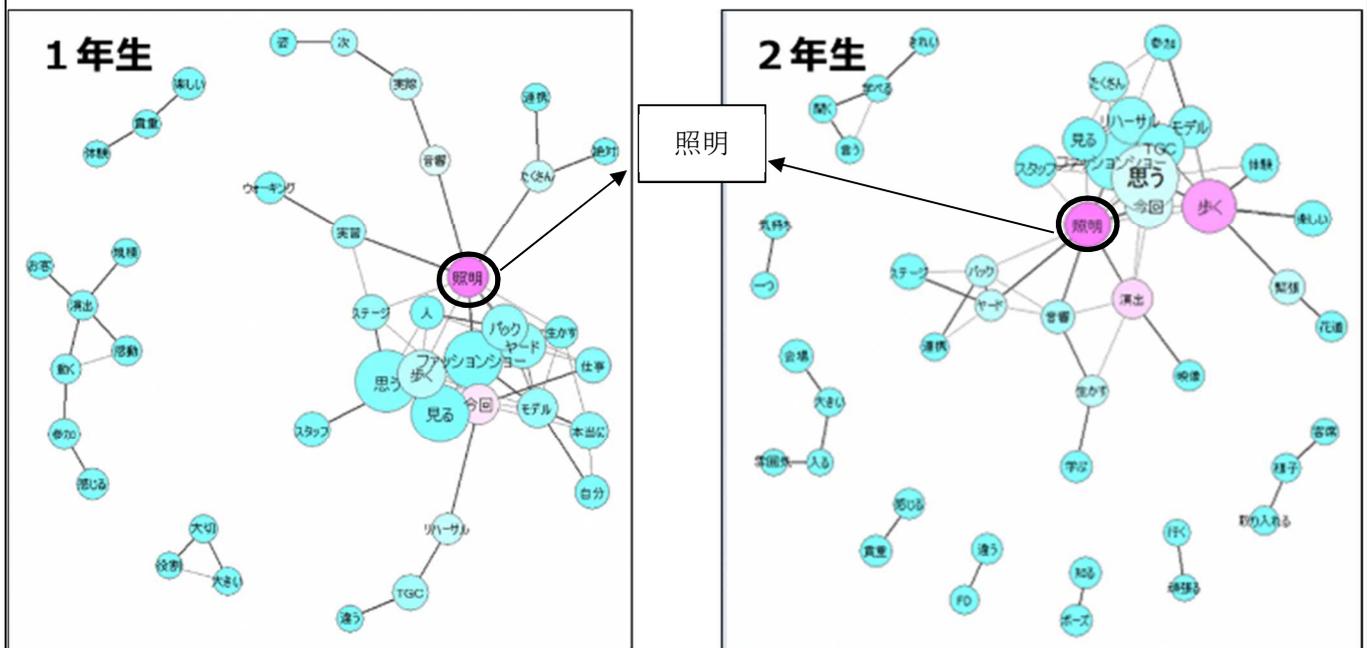


図1 「東京ガールズコレクション実習」生徒感想の学年比較

イ 「生徒意識調査」の変容の考察

表2のようにSPHで学んだことを基盤にして進路を考える生徒が増加した。また、表3のようにSP

H前に卒業した平成25年度生は地元への進学及び就職が92%だったが、SPH事業開始から、東京・関西も増加した。また平成27年度生は英語力を身に付けてファッションの世界に入るために、英語を学ぶ進路を選んだ生徒など、グローバルな考え方への進展も見られた。

希望職種の経年変化では、入学時にデザイナーなど知っている職業をあげていたが、専門科目を学習し、SPHで様々な方との出会いから職業理解が深まり、自分の適正に合う職業を見つけようとする姿勢が見られるようになった。

表2 卒業後の進路及び進路希望の経年比較

	ファッション	教員	語学	デザイン	観光	その他
H25年度生	54	2	2	5	10	27
H26年度生 (SPH前半1年間)	62	0	3	8	19	8
H27年度生 (SPH前半2年間)	58	3	11	8	17	3
H28年度生 (SPH3年間)	79	3	3	3	5	6
H29年度生 (SPH後半2年間)	76	3	0	12	3	3

表3 卒業後の進路先及び進路希望先の経年比較

	福岡	九州	関西	東京	海外
H25年度生	90.3	0.0	0.0	6.5	3.2
H26年度生 (SPH前半1年間)	73.5	11.1	37.5	14.7	0.0
H27年度生 (SPH前半2年間)	77.8	0.0	25.0	13.9	2.8
H28年度生 (SPH3年間)	67.5	7.7	0.0	15.0	7.5
H29年度生 (SPH後半2年間)	70.3	0.0	18.2	24.3	0.0

(3) 定量的評価指標の検討

文部科学省後援の公的資格で社会的な認知がある「AFT色彩検定1級」は、3年生の「課題研究」の色彩班が受験している。平成28年度、29年度ともに1次全員合格、2次は平成28年度69.2% (9/13名)、平成29年度は62.5% (5/8名)だった。全国の合格率が30%であることと本校の過去の合格率から70%の指標が妥当である。受験の時期は、SPH事業、ファッション販売2級検定、被服製作技術検定(ジャケット)1級検定、校外ファッションショーに向けての取組等重なっているが、この検定を目指す生徒達は、SPHの各事業においても、リーダーとして活躍してきた生徒が多く、「何のために」「どのような力をつけたいのか」を整理した上で取り組んでいる。そこで、リーダーが多く受検するこの検定の指標を定めることは、ファッションデザイン科全体の状況を保持・向上させるのに効果的と考えられる。

民間資格で、ファッション商品知識、接客・販売、マーケティング、VMDなどに関する検定である「ファッション販売能力検定2級」は、3年生全員が受験し、指標は70%としている。平成28年度は、71.8%だった。平成29年度は、2年生で全員受験することとし、ファッションビジネスについて理解を深めた上で進路選択させ、卒業までに全員2級取得を目指すことで、ファッションビジネスの視点を持った人材育成を目指している。

(4) 担当教員のスキルアップ

それぞれの事業は、ファッション業界をはじめとした関連企業先を開拓しながら、実施している。依頼・打ち合わせ・実行していく中で、多くの外部協力機関の方々との交流の機会をいただいている。これらは、産業界全体への識見の向上やネットワークの広がりにつながっている。

○実施上の問題点と今後の課題

(1) 学びの高度化

SPH最終年度の取組を通して、より高度な学びを生み出すカリキュラム・マネジメントの充実を図り、教科横断的な視点から3年間の学びを俯瞰する3年間の指導計画である「学びの地図」を完成させる。

(2) 身についた力に見える化

アンケートや意識調査を継続して実施し、個別の生徒の意識や進路目標がどのように変容しているのかを明らかにする。また、ポートフォリオの手法を用いた活動記録の分析等を行うなどして、身についた力を把握させる取組を検討する。

(3) 定量的評価指標の検討

生徒個々が多様な進路選択をしている中で、どの資格を取得することが将来の進路実現に重要な鍵となるのか、「3年間の学びの地図」で明示にすることにより資格取得の意義を明確にし、効果的な指標のあり方について検討する。

(4) 担当教員のスキルアップ

この2年間の研修会への参加や産業界との交流を通して、ファッションデザイン科として必要なものが見えてきた。最終年度も引き続き研修会への参加や交流を深めて、指導力とチーム力の向上を図る。

(5) 生徒の学力に応じた指導方針、入学生への指導方針の確立

教科・科目において、社会人招聘事業や体験実習等の一層の効果を狙った時期・内容設定を行い、生徒の学力を十分に伸ばす指導方針を確立するとともに、4年制大学も視野に入れたキャリア教育を実施する。